



別紙様式2 (高)

		「なりたい」を「なる」に鍛える職業観・勤労観を育成し、生徒の希望進路を実現する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>体系的なキャリア指導計画に基づき、生徒が目指す進路に関して理解を深めることで、進路意識の高揚に努める。</li> <li>従来のインターンシップや大学・専門学校・企業などの見学を検証し、生徒の主体性をさらに助長するように努める。</li> <li>生徒の進路選択のためのガイダンスや面談の充実を図り、個に応じた進路指導を一層推進する。</li> </ul>		B
		学校図書館の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校図書館を自学自習できるように整備し、生徒の確かな学力や豊かな感性を育む場として活用する。</li> <li>図書主任が中心となり、生徒と本を繋ぐ施策を策定し、実施に向けた教育計画を立案する。</li> </ul>		B
		保護者の声や地域を真剣に受け止めて、広報活動の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員一人一人が広告塔としての意識を持ち、責任を持って学校の教育活動及び生徒の学習活動の成果を広報するとともに、生徒の確保に努める。</li> <li>動画配信なども活用して、ホームページをさらに充実させ、学校の教育活動及び生徒の学習活動の成果を常に発信する。</li> <li>一人でも多くの県民に、本校の教育活動を知ってもらうために、新たな広報のツールを検討し実施に努める。</li> </ul>		A
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教務	わかる楽しさを生徒が実感できる授業を展開する。	基礎学力定着のための取組や支援を積極的に行い、単位未修得者0%を目指す。	B	A	学習指導要領の改訂や高大接続の動きを踏まえ、教育課程の検討や授業の改善をさらに進めていきたい。本校の教育活動の配信については学校公開などの運営方法を改善するなどして充実を図る。定期考査や成績処理の方法も改善の余地がある。
		「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」を学習過程に基づいた授業研究や校内研修を積極的に進め、授業力の向上と的確な評価に努めることで、生徒の学力向上を図る。各教科で「読む」「書く」「発表する」等の言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力の伸長を図る。	A		
	広報活動を充実させる。	職員一人一人が広告塔の意識を持ち、責任を持って学校の教育活動及び生徒の学習活動を広報するとともに、生徒の確保に努める。	A		
		動画配信なども活用して、ホームページをさらに充実させ、学校の教育活動及び生徒の学習活動を常に配信する。	A		
		一人でも多くの県民に教育活動を知ってもらうため、新たな広報のツールを創造する。	B		
進路指導	各学年の進路指導計画に基づいた職業観・勤労観を育成し、生徒の希望進路を実現する。	1学年：進路講演会、職業人との懇談会等を通して進路意識を育成する。	B	B	一般入試での合格者を増やすため系統立てた指導の充実を図る。課外授業の参加率を上げたい。学習習慣を身に付けさせるとともに、模擬試験等を効果的
		2学年：進路別見学会、インターンシップ、進学相談会参加等を通して個々に合った進路意識を明確化する。	A		
		3学年：1・2学年で獲得した進路に対する知識・経験を基に、個々の進路を実現させる。	B		
	学力を養成し、大学・専門学校の進学率を高める。	土曜課外、平常課外授業等へ積極的に参加させ、基礎学力・応用力の向上を図る。	B		
		大学・専門学校のオープンキャンパスへの積極的な参加を促すとともに、大学への進学・入	A		

別紙様式2 (高)

		試に対して早期の意識づけをする。			
		校外模試を積極的に活用し、生徒一人一人の学力をきちんと共有・分析し、よりよい進路選択ができるよう指導する。	B		に活用して意欲の向上を図る。生徒・保護者への情報発信を充実したい。
生徒指導	基本的生活習慣を定着させる。	服装指導や生活指導を計画的・継続的に行い、生徒に自律的で責任ある生活習慣を身につけさせる。	A	A	継続的な指導を進めるとともに、規則の周知・徹底に努める。
		生活習慣・しつけなどの家庭の教育力の重要性について啓発し、その向上を図る。	B		
	心の教育を充実させる。 (規範意識とモラルの向上)	挨拶を率先して行い、礼儀や言葉遣いなどマナーを身に付けさせる。	B		
		自己を大切にし、他人を尊重する心を養う。	B		
	問題行動の未然防止に努める。	校内・校外の巡回指導を継続的に行う。	A		
		生徒の小さな過ちを見逃さない。	B		
交通安全教育を推進する。	関係諸機関との連携を図り、交通講話などを実施して事故防止に努める。校外巡視指導や保護者との連携により事故及び防犯に関して確認事項の徹底を図る。	A			
生徒指導 いじめ防止	未然防止に努める。	いじめ未然防止のため、生徒の規範意識を高める。	B	A	教職員と生徒の関係を密にし、生徒の発する小さなサインを見落とすことなくいじめ防止に努める。
		生徒が教職員と相談しやすい関係を構築する。	B		
		情報モラル教育を推進する。	B		
	早期発見に努める。	生徒の発する小さなサインを見落とさず、いじめの早期発見に努める。	A		
		相談窓口を複数周知し、相談しやすい関係を構築する。	A		
	早期解消に努める。	適切にいじめの事実を確認し、被害者の心のケアをする。	A		
		加害者に対して、いじめをやめさせる指導を徹底する。	A		
		重大事件があった場合、速やかに調査結果を県教育委員会を通じて知事に報告する。	A		
	関係機関との連絡体制の強化に努める。	インターネットを通じて行われるいじめの対応をする。	A		
		保護者と密接に連絡を取り合い、事実の掌握と早期発見・早期解決に努める。	A		
教職員の研修を深める。	警察、児童相談所、法務局等の関係機関と連絡体制を構築し、相談することで早期解消を図る。	A			
特別活動	生徒主体の自発的な生徒会活動を展開する。	いじめや、インターネット環境等に関する研修や実践的研修を行い、いじめの対応方法の胸痛理解を図る。	A	B	部活動は徐々に活性化していると感じるが、加入率はほぼ横ばい状態である。加入率の向上に向けた新たな取組が必要である。
		役員を中心に、生徒の自主性を尊重した生徒会行事の企画・準備・運営に取り組む。	A		
	体験活動に取り組ませる。	生徒会・各種委員会を中心に全生徒の規範意識を高める方策を検討していく。	B		
	ボランティア活動やスキー教室を通して、豊かな人間性を育むことができるよう、体験的な活動を支援する。	A			
部活動の活性化を図る。	入部制度や、リーダーの育成を工夫し、部加入率の向上を目指す。	B			
伝統文化 国際交流	体験活動を推進する。	研修場所については生徒に好評だったが、参加を希望する生徒が極めて少ないのは残念である。	A	A	
	国際交流体験を充実させる。	体験活動の機会を設け、生徒一人一人が達成感や充実感を持てるようにする。日本の伝統文化に対する生徒の理解を深め、ルールを守り責任を重んじる態度を養う。	A		
		生徒に海外研修への積極的な参加を呼びかけ、国際交流の場を設定する。	A		

別紙様式 2 (高)

保健厚生	生徒が学習するために適切な環境を整備する。	安全点検、環境衛生検査を実施する。	A	B	環境の整備については進んだが、生徒の心のケアについては改善の余地がある。
		清掃監督の先生方や整備委員と連携し、ワックス塗布、大掃除等を行い校内実香に努める。	B		
	心身の健康の維持・増進に努め、生徒の心の居場所を提供し安らげる環境を整備する。	保健委員、福祉委員と連携し、外部講師による性教育講話と献血を実施する。	A		
		食育を推進し、体力の養成に努める。担任・保護者・SCと連携し生徒をチーム支援していく。またカウンセリングの環境を整える。特別支援を必要とする生徒を個別に支援する体制を整える。	B		
図書	生徒の自発的、主体的な学習活動を支援し、教育課程の展開に寄与する。	「学習・情報センター」として、学校図書館を活用した学習活動や読書活動を日々の各教科等の指導に取り入れ、生徒の思考力、判断力、表現力等を効果的に身に付けさせる。	A	A	「調べ学習」の場として図書館の利用を向上させるために蔵書を充実させ、書架の整理を行い、生徒が利用しやすい環境を整える。
		生徒の自学自習の場として利用の促進を図るため、環境整備に努める。	A		
		学習を関連としたコーナーを設け、生徒の利用する意欲を高める。	A		
	生徒の想像力を培い、興味・関心や豊かな心をはぐくむ、自由な読書活動や読書指導に取り組む。	「読書センター」として、生徒の知的活動を増進し、人間形成や情操を養う場となるよう努める。生徒の読書習慣の形成を図るため、図書館だよりを発行する。	A		
		リクエストカードを設置し生徒の希望書籍を購入することで、読書意欲を高める。	A		
渉外	保護者の参加意欲を高めるため、PTA活動への親しみや関心を持てるように広報するとともに家庭との連携を深める。	PTA総会や授業参観などへの出席率を高める工夫・改善、PR活動を本部役員と意見交換をしながら進める。	B	B	PTA活動への親しみと参加意欲を持った保護者を増やせるように広報活動を行い、家庭との連携を深める。
		会員相互の交流を図る行事等を計画するとともに、年2回発行する広報誌やPTA各支部による広報活動を工夫することで本校の活動について情報を伝える。	A		
		保護者による地域の巡回指導やマナーアップ推進運動に参加・協力していく。	B		
家政	学科のねらいを明確にして取り組む。	専門性を高めるため、コース制(フードデザインコース・ヒューマンサービスコース)を充実させる。	A	A	各コースの専門性をより高めるため、外部講師を招いての体験的な授業を展開する。家庭クラブの研究発表校として立派に発表することができた。ものづくり教育フェアや各種コンクールに参加し入賞することで生徒の意欲が高まったので今後も積極的に参加していきたい。広報活動を充実させたい。
		課題研究(5講座)を2・3学年合同の授業とすることで、選択の幅を広げ、なおかつ専門性を深め継続してできるようにする。また、成果を発表する場を設け、保護者などにも呼びかける。	A		
	教科と家庭クラブ活動の連携を図り、生徒主体の活発な活動を促す。	家庭クラブ講習会などを年に2回以上実施し、ボランティア活動など積極的参加を促す。	A		
		ホームプロジェクトを実施し、家庭・地域との連携を図る。また、優秀者を表彰し、次年度への動機づけとする。	A		
	各種検定の資格取得を目指し体験学習の充実を図る。	放課後や夏季休業中に課外指導を行い、資格取得のための指導を充実させる。	A		
	専門教科において保育実習や介護実習を行い、資格取得のための指導を充実させる。	A			
第1学年	基本的な生活習慣を身につける。	進んで挨拶をする、学校・社会の規則を守り生活をする等、高校生としてふさわしい振る舞いが出来るように各場面を通じて指導にあたる。	A	B	進路意識を高め、自己の将来を考えられるようにする。目標に向かって学習習慣の確立を図る。
	基礎学力の定着を図る。	授業での学習だけでなく、予習復習を含む家庭学習を習慣化させる。	B		
	心豊かな人間性を養う。	各種学校行事に積極的な参加を促し、主体的に活動できるようにする。	B		

別紙様式2 (高)

第2学年	基本的な生活習慣の確立	規則正しい良好な生活習慣の確立と挨拶の励行。	B	B	自立の精神を持った生徒の育成をめざす。人間性豊かな社会人になれるよう育成する。
	基礎学力の向上, 進路目標の早期決定	授業の重要性と卒業後の進路を見据えた学習意欲と家庭学習を身に付けさせる。	B		
		個々に応じた適切な進路選択のために, 進路別バス見学や進学相談を充実させる。	B		
	心豊かな人間性の育成	自己を確立し, 場に応じた言葉遣いや振る舞いと他人への思いやりの大切さを教える。	B		
修学旅行各種行事を通して, 集団における規律遵守, 協調性や自主性を養う。		B			
第3学年	自己の適性を理解し, 進路の実現を目指す。	総合的な学習の時間等を活用して, 職業意識を高めるとともに基礎学力を向上させ, 一人一人が輝く活力ある学年づくりをする。	A	A	生徒個々の適性を理解し, 進路実現に向けて取り組んだ。進路指導部と連絡を密にして, 生徒の就職・進学指導ができた。集会等で話を聞く姿勢も身につけてきた。
		課外や各種模擬試験に積極的に参加させ, 幅広い力を身に付けさせる。	B		
	進路指導部と連携し, 生徒・保護者へ進路に関する情報を伝える。	LHRや生徒面談での進路相談や学年集会における進路講話等を積極的・継続的に実施して, 「なりたい」を「なる」に鍛える職業観・勤労観を育成し, 生徒の希望進路を実現する。	A		
		進路指導部と連携し, 生徒・保護者対象の進路(就職)説明会を計画・実施する。	A		
		進路指導部と学年・担任との連絡・会議・相談を密にし, 共通理解を図る。	A		
	規範意識やマナーをわきまえた人間性豊かな社会人の育成。	笑顔でのあいさつやマナー, 清掃, 整理整頓など基本的な生活習慣を定着させ, 服装・身だしなみを整える意識を培う。	B		
全校・学年集会等における速やかな集合整列, 移動教室の施錠, 貴重品管理を徹底させる。		A			
国語	基礎学力の徹底を図る。	漢字・語句の基礎的な力を培い, 国語力の向上を図る。	A	A	便覧等補助教材を活用し, 教科書の単元学習の理解を深めるとともに, 様々な文章を読む機会を設けていきたい。
		辞典や便覧等を利用し, 様々な文章の読解力を高める。	B		
		様々な本を紹介し読書に対する意欲を喚起する。	B		
	古典の世界に親しませ, 基本的事項を理解させる。	画像や音声等を含む教材を利用し, 古典の世界に親しませる。	A		
		基本的な事項を定着させるとともに, 文章を正しく速く読めるように多くの文章に触れさせる。	A		
	進路を意識して, 必要な教材を授業に組み入れる。	国語における一般常識的な内容については問題集等を使用して学習をすすめる。	A		
教員間の情報の共有を大切にして, 一人一人の生徒の指導に当たり, 進路希望の実現を図る。		A			
地歴・公民	基礎学力の定着を図るとともに, 生徒の学習意欲を高め, 主体的な学習活動を促進させる。	生徒の実態に応じた授業を展開する。小テストを実施したり, ノートを定期的に提出させたりしながら学習内容の理解度を確認する。	A	A	重要事項の理解と定着を図るため, 指導方法の改善を進める。
		長期休業中に主体的に考察する課題を設定し, 学習内容をより深化させる。	A		
		郷土茨城の歴史を日本史や世界史との関連の中で幅広く理解させる「郷育」を推進する。	B		
数学	生徒の学習意欲を喚起し, 進路に応じた指導をする。	重要な公式を確実に身につけさせ, 適用できるようにするとともに, 目標を定め学習意欲を高める	A	A	習熟度別授業による効果で, 生徒の学習意欲が伸びた。
		課外授業を実施し, 進学希望者への進路対策をする。	A		
	習熟度別授業を導入する。	(1年生普通科) 習熟度に応じて2クラスを3分割にして, 学力に応じた授業を展開する。	A		
情報	知識・技能および情報の分析・評価・判断力を育成する。	タイピングを練習させる時間を定期的に設け, タッチタイピングの習得を目指す。	A	A	コンピュータの操作についてはある程度習熟させることができた。情報モラ
		アプリケーションソフトを十分に活用し, 情報を効果的に処理できるスキルを身に付けさせる。	A		

別紙様式 2 (高)

	情報モラルに配慮する態度を身に付ける。	個人情報や著作権についての学習を通して、情報の扱い方を学ばせる。	A		ルについては、教科だけでなく学校全体の取組が今後も必要だと感じた。	
		インターネットに関わる学習を通して、情報社会において守るべき情報モラルについて考えさせる。	B			
理科	基礎学力の定着を図る。	教科書に記載されている基礎的内容をしっかりと理解・定着させる。そのための計算力や記述力の能力向上もはかる。プリントや問題集などを通して、理解度や達成度を確認する。	A	A	プリントや問題集を用いて基礎的内容の定着を図った。実験やグループ活動を行い生徒の関心を高めることができた。観察・実験など生徒の考察能力を高める活動を多くしたい。	
	実験を通して観察・探求する能力を身に付ける。	実験を通して理科の面白さを体験させ、興味・関心が湧くように指導する。実験レポートの作成により』自然科学的に考察する能力の向上を図る。実験器具の使い方や実験終了後の整理整頓まで主体的に行動できるように指導する。	B			
	理科的現象への興味と関心を高める。	自然科学としての理科を認識させ、歴史的意義や現代における役割および環境問題などへ思考が及ぶように指導する。今を生きる自分に必要な身近な学問であることを理解させる。	A			
保健体育	授業に臨むための基本的学習習慣の定着を図る。	着替え、用具等の準備を含め、迅速に行動し、時間を厳守するように指導する。	A	A	生徒が主体的に活動できる場面を学年に合わせて増やしていく。	
	十分な運動量を確保する。	授業を通ししつけの徹底を図る（指定された服装、開始・終了の挨拶、言葉遣い等）。	B			
	十分な運動量を確保する。	生徒が十分な運動量を確保できる授業を展開する。	A			
	卒業後も主体的にスポーツに取り組める能力の育成を図る。	主体的な活動場面を多くし、考える力や、コミュニケーション能力の育成を図る。	B			
		それぞれの種目の楽しさを味わえる授業を展開する。	A			
英語	基礎学力の向上を図る。	小テストを実施し、ノートやワークブックを定期的に提出させ、学習内容の理解度を確認する。	A	A	基礎学力の定着を図り、読解力を高め、大学入試に対応できる学力を身につけさせたい。	
		第1学年は習熟度に応じて1クラスを2分割し、少人数によるきめ細かな指導を行う。	A			
		学習内容の定着のため、放課後の補習授業や課外授業を実施する。	A			
		クラスルーム・イングリッシュや音声教材をできるだけ多く使い、リスニング力の向上を目指す。	B			
	英語の授業の改善に努める。	授業内容・方法について教科内で研究協議を行う。	A			
英検取得を促す。	英検対策課外を行い、過去問題を活用して、検定試験の対策を行う。	A				
家庭	基礎的・基本的な知識と技術を理解させ、実践的な能力や態度を身につけさせる。	TTや分割履修などを活用し、生徒の実態にあった授業を工夫し展開する。	B	B	基礎・基本を定着させるために、実験・実習ではTTでの授業を展開したい。今後も資格取得に向けた意欲を高められるよう支援していきたい。	
		実験・実習などを通して各種技能・知識の向上を図る。	B			
	生徒の興味関心を考慮した授業の工夫をする。	フードデザインコース・ヒューマンサービスコースや課題研究（5講座）では、2・3学年が合同で授業を行うなど多彩な口座を開設することによって教科内容の充実を図る。	A			
	資格取得への意欲を高める。	放課後や夏季休業中に課外指導を行い、資格取得のための指導を充実させる。	B			
芸術	音楽	音楽を愛する心情を育て、様々な表現方法を身につける。	生涯にわたって音楽を愛する心育て、自ら積極的に音楽活動を楽しむ態度を育てる。	A	A	演奏活動や創作作品などを発表し共有できる場をつくりたい。鑑賞教材の工夫により主体的な鑑賞がなされるようにする。
			多様な形式の歌唱・器楽において、グループでの活動などを通し音楽を作り上げる喜びを味わう。	A		
			日本の音楽を通して日本の伝統文化を尊重する態度を養う。	A		
	音楽に対する感性を磨く。	様々な分野の音楽を主体的に鑑賞し、感じたことを言語で表現し共有する。	B			
美術	美術を愛好する心情を育て、創	問題発見・解決を念頭に置いて関心・意欲を高めながら、一人一人が輝く個性あふれる主体	B	B	提出締切日までに作品を	

別紙様式2 (高)

	造的な表現と鑑賞の基礎的な能力を身につける。	的な作品制作を行い，感性させる成就感を味わう。		完成させることが目標となりがちになってしまう生徒がいたので，関心・意欲・主体性をもっと大切に進めたい。
		画材の基本的な使い方を習得させ，期限内の課題提出を徹底する。	A	
		原始時代から現代までの絵画・彫刻・デザイン・映像・漫画などを鑑賞し，学習プロセスの中で，問題発見・解決を念頭に置いた「深い学び」の家庭を取り入れた美術表現の理解と関心を高める。	B	

※ 評価規準： 評価段階 A：十分できた B：概ねできた C：やや不十分 D：不十分